

第2期鎌倉食育推進計画 行動計画

取り組みの柱 1 食をとおした健康づくり

基本施策	1-1 望ましい生活リズムの推進
	1-2 食と心身の健康づくりの推進
	1-3 日本型食生活の推進

行動計画（指標）	現状値（平成25年3月末第2期計画策定時）	目標値
(1) 朝食を毎日摂取するようにしましょう	幼稚園・保育園：99.2% 中学2年生：91.2% 中学3年生：94.0% 20～30歳代：75.0% 40～60歳代：82.6% 70歳以上：93.7%	中学生以下：100%に近づける 20・30歳代：90%に近づける 40歳以上：100%に近づける
(2) 栄養バランス等に配慮した食生活を送りましょう	青年期：65.0% 壮年期：64.3%	80%以上に近づける
(3) 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）に気をつけて生活しましょう	新規	50%以上
(4) よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心を持ちましょう	新規	80%以上

取り組みの柱				担当課 (実施主体)	内容	平成28年度実績 (4月～3月分)	対象者	備考
1	2	3	4					
◎	○	○		保育課	「バランスのとれた食事」の啓発と実践 毎日の給食を媒体として、バランスのとれた食事を学びます	「バランスのとれた食事」を体感できるように、日々の給食でバランスに配慮した食事（主食、汁物、主菜、副菜）を提供した。また、食事の準備や調理に関わる機会を持たせ、食の大切さを指導した。	公立保育園 園児	
◎	○	○		発達支援室	「バランスのとれた食事」の啓発と実践 年間調理保育計画において「バランスのとれた食事」など、食事の大切さを学ぶ機会をつくり、実践します	児童発達支援センターあおぞら園では、食に対するこだわり、偏りのある児童に、調理の過程を見る、調理に一部参加することなどを通じて「楽しく、おいしい」という体験を年間40回程度積み重ね、今まで口になかった食材も食べてみようとする環境作りを実践した。	園児 保護者	
◎			○	発達支援室	給食だよりの発行 保護者へ、食や健康に関する情報を提供したり、保育園の献立の作り方を紹介しています	児童発達支援センターあおぞら園では、給食だよりの内容を含めた「献立表」を毎月発行した。	保護者	
◎			○	保育課	給食だより・保健だよりの発行 園児・保護者に向け、食や健康に関する情報を提供しています	給食だよりを発行した。（月1回発行） 保健だよりを発行した。（四半期ごとに発行）	公立保育園 園児・保護者	
◎				保育課	生活リズムの確立 園での生活の中で、日々の生活リズム（遊びなどの運動・食事・睡眠）をつくり、朝ごはんの大切さを学ぶ場をつくります	食事と昼寝の時間を決め、自然に生活リズムを意識した行動が出来るようにした。また、食事や健康の大切さを理解するための活動を、保育の一環として、保育士、栄養士、保健師の連携で実施した。	公立保育園 園児	
◎			○	公立小学校	給食だよりの発行 保護者へ、食や健康に関する情報を提供したり、保育園の献立の作り方を紹介しています	給食だよりの発行を実施した。 （概ね月1回発行）	児童	<担当課> 学務課
◎			○	公立小学校	食育だよりの発行 中学生へ、食や健康に関する情報を提供したり、朝食のレシピを紹介しています	食育だよりの発行を実施した。 （年3回発行）	生徒、保護者、教師	<担当課> 教育指導課

取り組みの柱				担当課 (実施主体)	内容	平成28年度実績 (4月～3月分)	対象者	備考
1	2	3	4					
◎				公立小学校	給食をとおしてバランスのとれた食を学ぶ バランスのよい日本型食生活を取り入れた献立の給食を提供することで、食べる体験からバランスのよい食事の大切さを学びます	給食を教材として食事のバランスについて学ぶことを実践した。	児童	<担当課> 教育指導課
◎		○		公立小・中学校	保健だより、健康だより等の発行 これらをとおして、望ましい生活リズム等を児童・生徒や家庭へ伝えます	実施(概ね月1回発行)	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
◎		○		公立小・中学校	朝会、学級指導、道徳の時間を利用した指導	年間指導計画に基づき、また指導の必要な場面に依りて実施した。	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
◎		○		公立小・中学校	生活リズム強調期間の設定	長期休業中の生活指導等、年間指導計画に基づき実施した。	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
◎	○			公立小・中学校	家庭科等の教科における食育 栄養バランスを考えた献立を整え、基礎的な調理をします	実施 (年間指導計画に基づき、小学校では、米飯とみそ汁を中心とした1食分の調理実習などを実施した。中学校では、栄養を考えた食事の献立を考え、基礎的な日常食の調理を実施した。)	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
◎	○	○	○	公立小・中学校	食に関する年間指導計画を策定	全校策定	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
◎	○	○	○	公立小・中学校	家庭科、特活等における学習 食と安全、食品の選び方・買い方、バランスのよい食事、健康と食べものなどについて学びます	年間指導計画に基づき家庭科、特活等における食に関する学習を実施した。	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
◎				教育総務課 (生涯学習センター)	かまくら食育カレッジの開催 世代をとおし、全ての人が多面的・総合的な視点から「食」に関心をもち、一人ひとりが、鎌倉食育推進計画の「めざす姿」を実現できるよう、「食」に関するさまざまな講座を実施します	7/30実施 つくってたべようあさごはん (10名参加)	市民	
◎						10/5、12 2回実施 オランダの家庭料理 (延べ48名参加)	市民	
◎						12/11実施 パパとおやつ作り (16名参加)	市民	
◎	○	○	○	市民健康課	かまくら食育カレッジ健康学科の開催 世代をとおし、全ての人が多面的・総合的な視点から「食」に関心をもち、一人ひとりが、鎌倉食育推進計画の「めざす姿」を実現できるよう、「食」に関するさまざまな講座を実施します	「健康づくり」の視点で食育カレッジを実施した。 「農業のことを学ぼう-農薬の適正使用と食品中の残留農薬の検査」(1回、12人)	県民	神奈川県生活衛生課と共催で実施。
◎	○	○		市民健康課	地域支援事業における食育講座の実施 「地域サポーター養成講座」の中で栄養・食事に関する講義を行い、今後の地域活動に活かします	望ましい食事のあり方や、今後地域サポーターになった際に地域でできること等の講義を実施した。(1回、6人)	市民	

取り組みの柱				担当課 (実施主体)	内容	平成28年度実績 (4月～3月分)	対象者	備考
1	2	3	4					
◎	○			市民健康課	母子食育事業の実施 お子さんや保護者が、はじめて接する「食」体験の大切さ・幼児期に適したおやつを共食する楽しみを伝えます (こんにちはあかちゃん教室、おんぶで離乳食教室、バニラビーンズ等)	初めてあかちゃんをむかえる、お母さん・お父さんのための講座として「こんにちはあかちゃん教室」、離乳食の形態とあかちゃんの口の動きを学ぶ講座として「おんぶで離乳食教室」、双子・三つ子の親子の情報共有や共食を楽しむ講座として「バニラビーンズ」を実施した。(20回、延べ359人参加)	乳幼児及び保護者	
◎				市民健康課	乳幼児健診・乳幼児健康相談等における啓発 乳幼児健診等で、保護者との個別相談の時間を設け、生活リズムの確認や食事の大切さを伝えます	6か月育児教室、1歳児歯科育児教室、1歳6か月児健康診査、乳幼児健康相談において食事に関するアドバイスを実施した。また、1歳6か月児健康診査では一口つなぎ食に関するレシピ配布を行った。(157回、延べ2134人)	乳幼児及び保護者	
◎				市民健康課	地域食育事業・健康づくり事業の実施 地域の活動グループ(町内会・PTA・子育てサークル等)との連携・協力により、食と健康づくりの関係について講話等をおし伝えます	骨密度や体組成測定等とあわせて食と健康づくりについて啓発した。今年度は減塩に重点をおき実施した。また、地域の活動グループの中で、乳幼児期の食事・生活習慣病予防のための食事・高齢期の食事等についての講話を行った。(24カ所、延べ711人)	市民	
◎				市民健康課	成人保健事業における栄養相談の実施 個別栄養相談「食事カルテ」を実施し、食生活から生活習慣病予防を考えます	食事に関する個別相談を行い、望ましい食事にするための情報提供や個々に応じた食生活の提案を行った。(17回、17人)	市民	
◎				市民健康課	高齢者保健事業における食育事業の実施 個別栄養相談やランチセミナーを通して、望ましい食事とウエイトコントロールについて考えます	ロコモティブシンドローム予防を目的とした講座において、市内就労継続支援事業所等で作られたお弁当を用いたランチセミナーを行った。(1回、8人)	市民	

第2期鎌倉食育推進計画 行動計画

取り組みの柱 2 食をとおした人づくり

基本施策	2-1 食に関する体験の推進 2-2 鎌倉の食、日本の食の伝統や文化の推進 2-3 家庭、地域、学校等における共食の推進
------	--

行動計画（指標）	現状値（平成25年3月末第2期計画策定時）	目標値
(1) 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」を楽しみましょう	平成25年度から指標変更	週平均10回以上
(2) 農水産業など食に関した体験をしましょう	平成25年度から指標変更	30%以上

取り組みの柱				担当課 (実施主体)	内容	平成28年度実績 (4月～3月分)	対象者	備考
1	2	3	4					
◎				保育課	給食をとおし、伝統的な食に親しむ	日々の献立に、和食を意識的に多く取り入れている。野菜や果物など、旬を意識して提供した。また、こどもの日、十五夜、ひな祭りなど、伝統的な和の行事食を実施した。	公立保育園 園児	
◎				発達支援室	和食の献立を多く取り入れた給食を実施します	児童発達支援センターあおぞら園では、5月のこどもの日、7月の七夕、3月のひなまつりなどの季節や年中行事を意識した献立に基づく給食の提供を実施した。	園児 保護者	
◎				保育課	スプーンや箸などの食具の上手な使いかたを身につける	鎌倉市公立保育園食育計画に沿って、日々の給食や遊びの中で、月齢、年齢に応じた食具の使い方（スプーンの持ち方や箸の使い方）の指導を実施した。	公立保育園 園児	
◎				保育課	食に関するマナーを知る 集団生活の中で、年齢に応じた会食のマナーを身につけることを支援します	日々の給食時間にクラス内での他者との関わり方や食事マナーを指導した。また、行事の時には異年齢児とグループになり、大人数での会食マナーを身につける指導を実施した。	公立保育園 園児	
◎				保育課	「食」に関する感謝の心をはぐくむ 給食をとおして、食事を作ってくれた人や食べ物への感謝の心を育てます 食前後の挨拶の意味を伝え、習慣を育てます	野菜の栽培や調理保育を通し、食に関わることにより、感謝の心を育てる指導を実施した。	公立保育園 園児	
◎				保育課	給食等の時間における、楽しい会話をとおした会食 日々の給食やランチルーム会食会、地域の方との会食会等とおし、一緒に食べる楽しさを体験します	公立保育園では、日々の給食時間にはクラス内、行事の時には異年齢児とグループになり会食することにより、一緒に食べる楽しさを体験させた。	公立保育園 園児	
◎				公立小学校	鎌倉伝統の食による献立の作成 鎌倉の伝統の食であるけんちん汁の献立を作成し、次世代に伝えます	鎌倉の伝統の食を取り入れた献立として、各学校でけんちん汁を実施した。	児童	＜担当課＞ 学務課
◎				公立小学校	給食等の時間における、楽しい会話をとおした会食 日々の給食やランチルーム会食会、地域の方との会食会等とおし、一緒に食べる楽しさを体験します	ランチルームでの会食や学年間の交流給食、地域の方などの会食を実施した。	児童	＜担当課＞ 教育指導課
◎	○			公立 小・中学校	「食」に関する感謝の心をはぐくむ 給食、家庭科、技術・家庭科等とおして、食事を作ってくれた人や食べ物への感謝の心を育てます 食前後の挨拶の意味を伝え、習慣を育てます	各校において指導を実施	児童・生徒	＜担当課＞ 教育指導課

取り組みの柱				担当課 (実施主体)	内容	平成28年度実績 (4月～3月分)	対象者	備考
1	2	3	4					
	◎			青少年課	かまくら食育カレッジの開催 世代をとおし、全ての人が多面的・総合的な視点から「食」に関心をもち、一人ひとりが、鎌倉食育推進計画の「めざす姿」を実現できるよう、「食」に関するさまざまな講座を実施します	幼児、小・中学生とその保護者、青年に対し、「食」に関心を持つことを重点においた講座を実施した。 121回延べ3,249人参加)	幼児～中学生とその保護者及び青年	
○	◎	○	○	市民健康課	かまくら食育カレッジ鎌倉学科の開催 世代をとおし、全ての人が多面的・総合的な視点から「食」に関心をもち、一人ひとりが、鎌倉食育推進計画の「めざす姿」を実現できるよう、「食」に関するさまざまな講座を実施します	「地産地消」の視点で食育カレッジを実施した。 「簡単！さかな料理講座」(述べ9人)	市民	
	◎	○		市民健康課	幼児食育事業「やってみよう！わくわくクッキング」の実施	「自分でやってみたい」という気持ちが芽生える時期の幼児を対象に調理を行い、一緒に食べることで「共食」の良さを味わった。 図書館職員及びボランティアスタッフによるおにぎり等の絵本や紙芝居の読み聞かせや手遊びも合わせて実施し、調理への導入を行った。 調理は日本の食文化に触れるきっかけになるよう「おにぎり作り」「かつおぶし削り」等の体験を行った。(3回、72人参加)	2歳6カ月～3歳11か月までの幼児及び保護者	
	◎			高齢者いきいき課 市民健康課	一人暮らし高齢者の会食会等の支援 地区社協を中心とした、一人暮らし高齢者の会食会等の開催の支援	地区社会福祉協議会で、高齢者の会食会を中心に活動した。	市内在住の一人暮らし高齢者	

第2期鎌倉食育推進計画 行動計画

取り組みの柱 3 食でつなぐ地域づくり

基本施策	3-1 生産から体の中まで、食の過程を知る体験の推進 3-2 地場産物の使用の推進 3-3 食をとおした地域づくりの推進
------	--

行動計画（指標）	現状値（平成25年3月末第2期計画策定時）	目標値
(1) 地元産（県内産を含む）食材を使いましょう	25.8% * 地元産の（県内産を含む）食材をよく購入している人の割合	30%以上
(2) 食育の推進に関わるボランティア活動をしてみましょう	9団体（612人）	700人以上

取り組みの柱				担当課 (実施主体)	内容	平成28年度実績 (4月～3月分)	対象者	備考
1	2	3	4					
○	◎			保育課	調理体験 自分たちで栽培した野菜や他の食材を使った調理を体験します	5歳児に調理保育を実施した。 (味噌汁、カレー、月見団子、焼きおにぎり、ホットケーキ、ポップコーン等)	公立保育園 園児	
		◎		保育課	栽培をとおして食べる意欲を育てる	野菜や芋の苗付けや収穫を実施した。園児の成長状況に応じ指導した。	公立保育園 園児	
		◎		発達支援室	種まき・水やり・雑草とり等手間ひまをかけ、栽培の苦労と収穫の喜びを体験します	児童発達支援センターあおぞら園では、納入業者の協力のもと、地産地消を意識した食材の納入を実施した。(市内産のきゅうり、県内産の小松菜、トマト、かぶ、玉ねぎ、かぼちゃ、とうもろこし等)	園児	
		◎		保育課	味覚体験	栽培から収穫までを体験し、採れた野菜を調理保育や給食の材料として使用するなど、一連の流れで経験できた。園児の成長状況に応じ指導した。	公立保育園 園児	
		◎		発達支援室	自分たちで育て、収穫した新鮮な野菜の味を体験します	児童発達支援センターあおぞら園では、収穫した野菜をそのまま給食で食べる体験とともに、目の前で調理する様子を見ることや、収穫した野菜を子どもと一緒に調理するなどの体験もした。旬の果物などを子どもの前で皮をむき香りや味の体験をした。	園児	
		◎		保育課	地場食材を活用した給食の実施	市内・県内産の青菜、玉ねぎ、キャベツ等を使用。野菜類については学校に準じた納品を納入業者の協力で実施した。	公立保育園 園児	
		◎		発達支援室	鎌倉産食材を給食に取り入れ、子どもたちに伝えます	児童発達支援センターあおぞら園では、納入業者の協力のもと、地産地消を意識した食材の納入を実施した。(市内産のきゅうり、県内産の小松菜、トマト、かぶ、玉ねぎ、かぼちゃ、とうもろこし等)	園児	
	◎	○		公立小学校	学校給食展の開催 地場産の食材を使った給食の様子を紹介し、学校給食の意義と役割について広く市民に理解を深めてもらいます	鎌倉駅地下道ギャラリーに学校給食についてのパネル展示を10月に実施した。	児童	<担当課> 学務課
	◎	○		公立小学校	季節の食材の紹介 給食室や栄養士から、季節の食材情報を発信します	旬の野菜等を取り入れた給食の提供を、給食だより等で紹介した。	児童	<担当課> 学務課
		◎		公立小学校	地場食材を活用した給食の実施 鎌倉産食材を給食に取り入れ、子どもたちに伝えます	市内産のほうれん草やこまつな等、県内産の牛乳、たまねぎ、キャベツ、米等を使用した給食を実施した。	児童	<担当課> 学務課

取り組みの柱				担当課 (実施主体)	内容	平成28年度実績 (4月～3月分)	対象者	備考
1	2	3	4					
		◎		市民健康課	食育事業（調理実習等）における 地場食材の使用 調理実習等とおし、地元産（県内産を含む）の食材を味わってもらうことで、地元の食を知り、大切にすることを学びます	食育カレッジ、こんにちはあかちゃん教室、おんぶで離乳食教室、パニラビーンズ(双子・三つ子の親子講座)等の調理実習や講座で地場食材を使用し、旬の食材の良さ等を伝達した。(計19回使用)	市民	
		◎		公立 小・中学校	生産体験学習 栽培活動とおして、食生活が多くの人に支えられていることを学びます	米・野菜の栽培等、各校の年間指導計画に基づき実施した。	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
		◎		公立 小・中学校	食料生産に関する学習 社会科等の教科の中で、食料生産を支える人々について学びます	食料生産に従事している人々の工夫や努力、地域の環境条件を生かした食料生産等を各校における年間指導計画に基づき実施した。	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
		◎		公立中学校	職場体験（キャリア教育） 総合的な学習の時間とおした、職場体験を実施します	近隣の青果店等での職場体験を各校の年間指導計画に基づき実施した。	生徒	<担当課> 教育指導課
○	○	◎	○	市民相談課	かまくら食育カレッジ教養学科の 開催 世代とおし、全ての人が多面的・総合的な視点から「食」に関心をもち、一人ひとりが、鎌倉食育推進計画の「めざす姿」を実現できるよう、「食」に関するさまざまな講座を実施します	「食でつなぐ地域づくり」の視点で食育カレッジを実施した。「家庭でできる食育」(1回、2人)	市民	
	○	◎	○	教育センター	食育研修会の実施 児童・生徒へ「食」の大切さを伝えるため、まず、教育に携わる教職員の研修会を開催し、参加者は、「食とは何か」を考え、食育について学びます。	第1回は「鎌倉の漁業の仕組みを学ぶ」等をテーマに実習及び講演を(30名参加)、第2回は「環境に配慮した食教育」等をテーマに実習及び講演を(30名)実施した。	小中学校教職員	
		◎		J Aさがみ鎌倉市 市青壮年部	親子農業体験の開催 JAさがみ鎌倉市青壮年部が、種まきから収穫まで、一連の農作業体験の場を提供します	第1回種まき(9/5実施)33組参加 第2回間引き(9/19実施)29組参加 第3回収穫(11/15実施)27組参加	市民	<担当課> 産業振興課
		◎		秋の収穫まつり 実行委員会	収穫まつりの実施 鎌倉で収穫された農産物・海産物の紹介と販売とおし、鎌倉の食と一緒に守り育てる心をはぐくみます また鎌倉の産業の活性化をはかります	農産物品評会・秋の収穫まつり (11/26・11/27実施)	市民	<担当課> 産業振興課
		◎		鎌倉漁業協同組合		魚まつり(鎌倉漁協・10/2実施)	市民	<担当課> 産業振興課
		◎		鎌倉女子大学家政学部家政保健学科調理と食文化ゼミナール	大船軒とのコラボ弁当の開発 鎌倉市の老舗駅弁店と大学生が鎌倉、神奈川県産の食材を使い弁当の開発を行っている。	第9弾として11月に「小さな幸せ運とお招き弁当」の開発、販売を行った。鎌倉、神奈川県産の食材を使い、多くの人に知ってもらい、720個を販売した。	対象範囲はなし	
		◎		鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科食品学ゼミナール	大学はおいしい!!フェア(開催:高島屋新宿店) ゼミナールで考案した商品を販売し、研究成果を公表している。	鎌倉で採れるホンダワラ科に属する海藻の「アカモク」を利用して「アカモクのさつま揚」を井上蒲鉾店と共同開発、販売した。商品は、ミネラル、食物繊維が豊富で栄養価が高く、食感の良さから評価が高く、フェアでは連日完売した。	対象範囲はなし	

取り組みの柱				担当課 (実施主体)	内容	平成28年度実績 (4月～3月分)	対象者	備考
1	2	3	4					
		◎		鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科調理科学ゼミナール	うまいもん大学二(開催:大船ルミネ店) 鎌倉ニュージャーマンと開発したスイーツを販売した。	二十歳代女性をターゲットに、夏には「ヨーグルトのさつぱりケーキ」を、秋には「カラフルベジシュー」を開発した。	対象範囲はなし	
		◎		鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科食品学ゼミナール	秋の収穫まつりの実施 様々な企画をとおし、子どもたちが野菜の魅力を知り、野菜を食べるきっかけづくりを目指している。	クイズ形式の紙人形劇を11月27日に鎌倉女子大学菩提樹の道で上演した。参加してくれた子ども達には、登場人物を模ったしおりをプレゼントした。	秋の収穫祭り参加者	
		◎		市民健康課	地域食育活動団体加入者増加のための協力	食育に関する事業で鎌倉市食育活動団体として登録されている12団体を紹介するチラシを配布した。また、ホームページや衛生時報での周知を行った。	市民	

第2期鎌倉食育推進計画 行動計画

取り組みの柱 4 食からはじめる環境づくり

基本施策	4-1 食に関する場づくりの推進
	4-2 食育情報の発信体制の充実
	4-3 食の3Rの推進

行動計画（指標）	現状値（平成25年3月末第2期計画策定時）	目標値
(1) 食品表示や、食中毒の予防などの食品の安全性について関心を持ちましょう	65.80%	90%以上
(2) 食物などから出るごみの発生抑制に取り組みましょう	82.60%	85%以上

取り組みの柱				担当課 (実施主体)	内容	平成28年度実績 (4月～3月分)	対象者	備考
1	2	3	4					
			◎	保育課	食に係る放射性物質濃度測定の実施 市立・私立保育園、おおぞら園、幼稚園及び小学校給食食材等並びに農産物の放射性物質濃度測定を実施します	市立保育園の給食食材について、1日1検体を抽出し、給食に使用する前日に測定して安全を確認した。また、私立保育園は施設からの申出により測定を実施した。	公・私立保育園園児	
			◎	こどもみらい課		幼稚園は施設からの申出により、園庭等で収穫した食材も含め測定を実施した。	私立幼稚園	
			◎	発達支援室		おおぞら園では月に3検体を抽出し、給食に使用する前日に測定して安全を確認した。	園児	
			◎	公立小学校		市立小学校の給食に使用する東日本産の食材について、1日2検体を抽出し、給食に使用する前日に測定した。さらに、事前に測定可能な食材については、月15検体程度を測定し、安全な食材の提供に努めた。	児童	<担当課> 学務課
			◎	産業振興課		市内で生産された農産物について、毎月1回放射性物質測定を行い、安全を確認した。		
			◎	公立小・中学校環境政策課	牛乳パックのリサイクル 給食にでた牛乳パックのリサイクルを習慣化し、環境にやさしい生活への意識をはぐくみます	公立小・中学校全校で実施した。(牛乳アレルギーの児童に配慮して実施した。) 平成28年度のリサイクル量: 約11,420kg	児童・生徒	<担当課> 公立小・中学校: 教育指導課
○			◎	公立小・中学校	鎌倉の地域に関する学習 社会科、総合的な学習の時間等の時間をおし、鎌倉の地に興味を持つことで地域づくりへの意識をはぐくみます	地域学習の中で、鎌倉の農業や生産物等についての学習を実施した。	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
			◎	公立小・中学校	社会科等の教科における学習 市教委作成副読本「かまくら」「わたしたちの鎌倉」を用いて、「食」ともつながる身の回りの環境を学習し、環境保全の意識をはぐくみます	各校の年間指導計画に基づき実施した。	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
			◎	公立小・中学校	環境教育の実施 教科、総合的な学習の時間等をおし、身近な環境からグローバルな環境まで考える力をはぐくみます	各校の年間指導計画に基づき実施した。	児童・生徒	<担当課> 教育指導課
			◎	公立小・中学校	開かれた学校づくり 学校行事等の開放により、地域との連携を推進します	10月に「学校へ行こう週間」を全校で実施予定。	児童・生徒	<担当課> 教育指導課

取り組みの柱				担当課 (実施主体)	内容	平成28年度実績 (4月～3月分)	対象者	備考
1	2	3	4					
			◎	環境政策課	「鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画」及び「鎌倉市環境教育行動計画」の施策の推進 温室効果ガス削減や環境保全行動の推進について、具体的な取り組み（地産地消 など）の普及啓発を図ります	・6月の環境月間において、農産物の地産地消についてのパネル展示を実施した。 ・環境教育アドバイザーの派遣(38回／参加者:2,162名)を実施した。	市民	
			◎	ごみ減量対策課	環境教育 保育園・幼稚園・小学生の児童を対象とした、循環型社会の形成に向けた、「食」とおしたごみ発生抑制・減量化及び資源化を推進します	出前講座や貸出しによるイベント等で実施した。 ・保育園・幼稚園・子ども園(紙芝居等貸出しによるイベント型) 6回(貸出しのため人数未回答) ・小学校 6回(延べ466人参加) ・中学校 2回(文化祭での展示のため人数未回答)	市民	
○	○	○	◎	市民健康課	かまくら食育カレッジ環境学科の開催 世代をとおり、全ての人が多面的・総合的な視点から「食」に関心をもち、一人ひとりが、鎌倉食育推進計画の「めざす姿」を実現できるよう、「食」に関するさまざまな講座を実施します	「食と環境」の視点で食育カレッジを実施した。 「食品衛生の基本と衛生的なお弁当作りのコツ」(2回、10人)	市民	
○	○	○	◎	市民健康課	食育情報の発信 食(育)に関する正しい情報発信の充実をめざします	鎌倉衛生時報等で食育に関する情報発信を行った。 ・衛生時報6月号:食育月間 ・本庁舎ロビー展示:食育月間	市民	